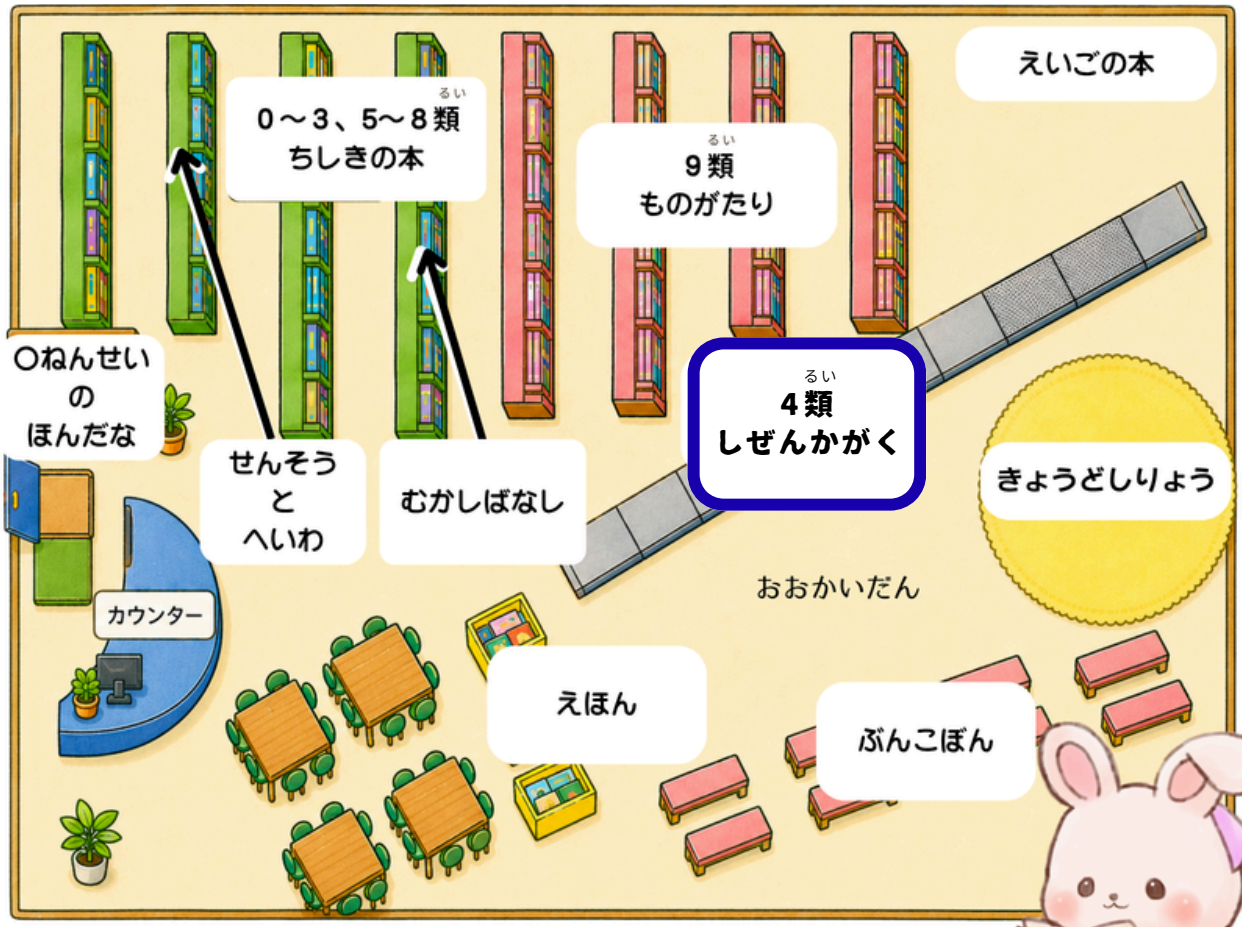
図書館だより

安田小学校図書館
2026年10月

ハロウィンのクイズをやっています。さんかしてくださいね！

図書館内図

新しい本の置き場所には、もうなれましたか？4類の自然科学の場所が大きく変わっているところがポイントです。本をさがしていて困ったら、カウンターで聞いてくださいね。



本をさがすときは…

背ラベルや、本だなのサインをヒントにするとさがしやすいです。



保護者の皆様へ　≪図書の授業≫

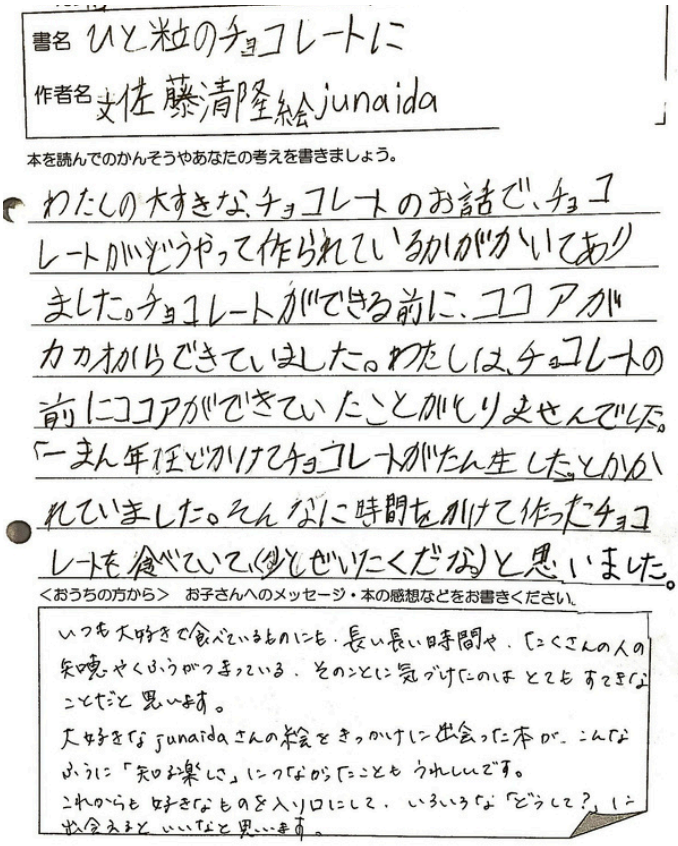
今の時期の図書の授業は、ほとんどの学年で「読書会」を行っています。安田小学校の読書会は、クラス全員が同じ本を読んで語り合うタイプの読書会です。読書会のよさは、友だちの話を聞いて、自分とは違う解釈に驚いたり、自分の中に新たな考えが湧き上がってきたりする体験ができることです。２年生の『にじいろのさかな』の読書会では、主人公の「にじうお」の気持ちの変化に着目し、にじうおの幸せがどう変化していったかについて語り合いました。「うろこをあげなくても、ごめんねと言えば友だちになれるはず」といったほかの人を揺さぶるような意見や、「みんなが幸せになったから、海がキラキラしているように見えたんだと思う」といった、情景描写に意味を見出すような意見も出ました。授業の後は、シリーズの本がすべて貸し出される人気ぶりで、子どもたちの心に残る会となったことがうかがえました。

夏休み親子読書

夏休みの親子読書には、芸術鑑賞会の演目だった『100万回生きたねこ』や、死んだクジラで命をつなぐ深海の生物たちを描いた『クジラがしんだら』、7月に亡くなられた林明子さんの絵本がよく選ばれていました。

保護者の方からは、「本を読んだあとも（中略）何度も本をめくっていました」「やっぱり息子の笑う姿に出会えたらとっても幸せな気持ちになるなと、親として本に感謝する気持ち」といった文章がみられました。

本を読んで心が動いた。それを言葉にしたら、おうちの人が喜んで聞いてくれた。そんな積み重ねが、子どもたちの中に幸せな記憶となって残り、心を豊かに耕してくれればよいなと思っています。



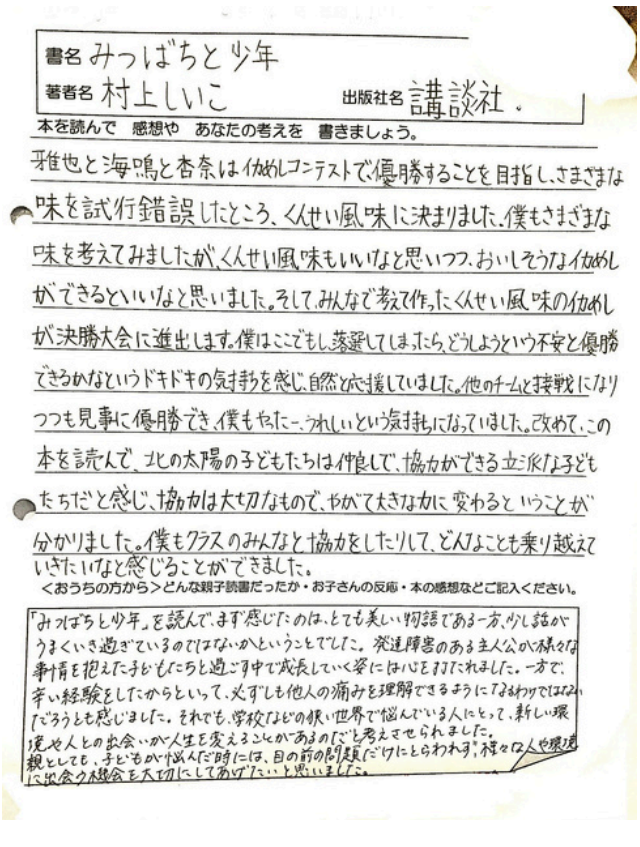
書名 ひと粒のチョコレートに
作者名 文 佐藤清隆 絵 junaida

本を読んでのかんそうやあなたの考えを書きましょう。

わたしの大すきなチョコレートのお話で、チョコレートがどうやって作られているかがかいてありました。チョコレートができる前に、ココアがカカオからできていました。わたしは、チョコレートの前にココアができていたことがしりませんでした。「一まん年位どかけてチョコレートがたん生した。」とかかれていました。そんなに時間をかけて作ったチョコレートを食べていて少しぜいたくだなと思いました。

<おうちの方から> お子さんへのメッセージ・本の感想などをお書きください。

いつも大好きで食べているものにも、長い長い時間や、たくさんの人の知恵やくふうがつまっている、そのことに気づけたのはとてもすてきなことだと思います。
大好きなjunaidaさんの絵をきっかけに出会った本が、こんなふうに「知る楽しさ」につながったこともうれしいです。
これからも好きなものを入り口にして、いろいろな「どうして？」に出会えるといいなと思います。



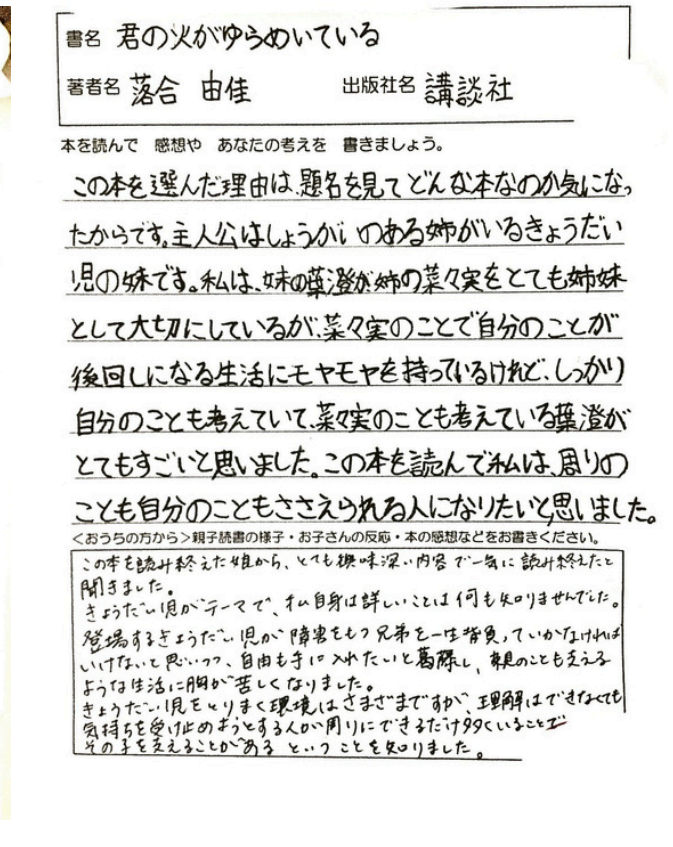
書名 みつばちと少年
著者名 村上しいこ　出版社名 講談社

本を読んで 感想や あなたの考えを 書きましょう。

雅也と海鳴と杏奈は、かぬまコンテストで優勝することを目指し、さまざまな味を試行錯誤したところ、くんせい風味に決まりました。僕もさまざまな味を考えてみましたが、くんせい風味もいいなと思いつつ、おいしそうなかぬまができるといいなと思いました。そして、みんなで考えて作ったくんせい風味のかぬまが決勝大会に進出します。僕はここでもし落選してしまったらどうしようという不安と優勝できるかなというドキドキの気持ちを感じ、自然と応援していました。他のチームと接戦になりつつも見事に優勝でき、僕もやったーうれしいという気持ちになっていました。改めて、この本を読んで、北の太陽の子どもたちは仲良しで、協力ができる立派な子どもたちだと感じ、協力は大切なもので、やがて大きな力に変わるということが分かりました。僕もクラスのみんなと協力をしたりして、どんなことも乗り越えていきたいなと感じることができました。

<おうちの方から>どんな親子読書だったか・お子さんの反応・本の感想などご記入ください。

「みつばちと少年」を読んで、まず感じたのは、とても美しい物語である一方、少し話がうまくいき過ぎているのではないかということでした。発達障害のある主人公が様々な事情を抱えた子どもたちと過ごす中で成長していく姿にはハラハラされました。一方で、辛い経験をしたからといって、必ずしも他人の痛みを理解できるようになるわけではないだろうとも感じました。それでも、学校などの狭い世界で悩んでいる人にとって、新しい環境や人との出会いが人生を変えることがあるのだと考えさせられました。
親としても、子どもが悩んだ時には、目の前の問題だけにとらわれず、様々な人や環境に出会う機会を大切にしてあげたいと思いました。



書名 君の火がゆらめいている
著者名 落合 由佳　出版社名 講談社

本を読んで 感想や あなたの考えを 書きましょう。

この本を選んだ理由は、題名を見てどんな本なのか気になったからです。主人公はしょうがいのある姉がいるきょうだい児の妹です。私は、妹の葉澄が姉の菜々実をとても姉妹として大切にしているが、菜々実のことで自分のことが後回しになる生活にモヤモヤを持っているけれど、しっかり自分のことも考えていて、菜々実のことも考えている葉澄がとてもすごいと思いました。この本を読んで私は、周りのことも自分のこともささえられる人になりたいと思いました。

<おうちの方から>親子読書の様子・お子さんの反応・本の感想などをお書きください。

この本を読み終えた姉から、とても興味深い内容で一気に読み終えたと聞きました。
きょうだい児がテーマで、私自身は詳しいことは何も知りませんでした。
登場するきょうだい児が障害をもつ兄弟を一生背負っていかなければいけないと思いつつ、自由も手に入れたいと葛藤し、親のことも支えるような生活に胸が苦しくなりました。
きょうだい児をとりまく環境はさまざまですが、理解はできなくても気持ちを受け止めようとする人が周りにできるだけ多くいることでその子を支えることがあるということを知りました。